

(8) 中国



中国地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鋳工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

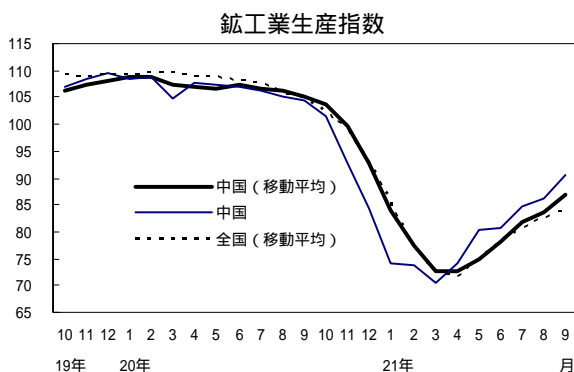
前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年8月)	今回(平成21年11月)	
雇用情勢	急速に悪化	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は持ち直している。

鉄鋼は、自動車や家電向けを中心に増加している。化学は、エチレン、スチレンモノマー、ポリスチレン等を中心に増加している。輸送機械は、販売が好調な新型車や国内及び欧州での経済対策の効果により、小型自動車等で生産が上向いたことなどから、上昇している。一般機械は、設備投資の抑制により印刷機械や半導体製造装置の生産が低調だったことから、減少している。電子部品・デバイス、携帯電話向けのモス型半導体集積回路を中心に上昇している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

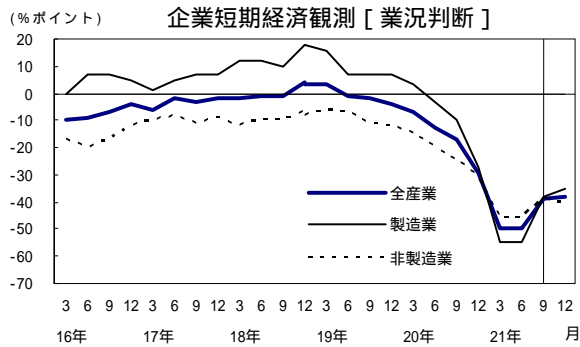
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
鉄鋼	16.5	3.6	28.5	42.0	11.7
化学	16.1	15.1	6.7	6.1	1.6
輸送機械	14.8	20.9	21.8	25.1	0.9
一般機械	10.7	10.7	4.1	6.5	3.7
電子部品・デバイス	7.3	17.2	14.4	12.6	-
鋳工業	100.0	7.6	11.1	11.5	3.3

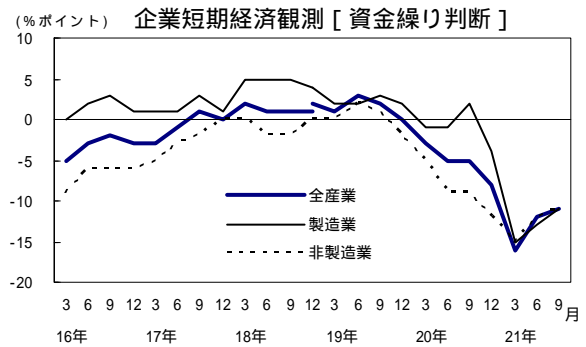
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

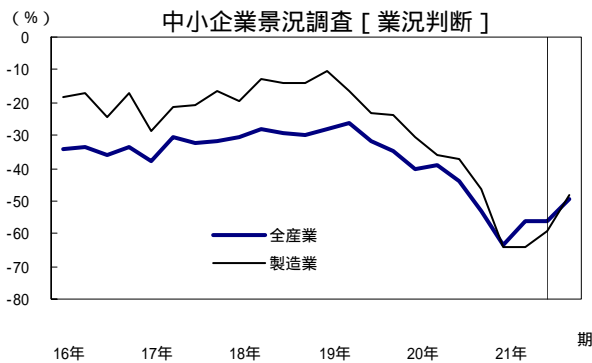
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年12月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

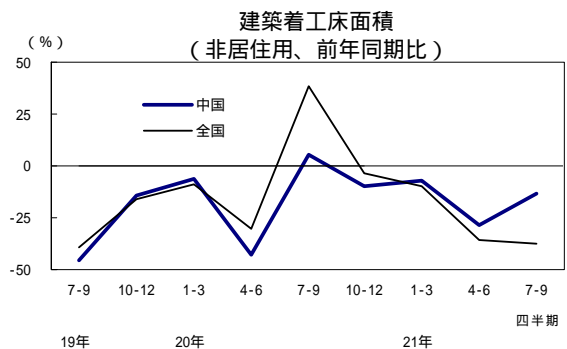
「下期に入っても対面販売から受け取るお客様の反応には変化がなく、少額の設備投資案件さえも抑制されている(通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	4.8	22.5(1.6)
製造業	12.7	32.2(4.0)
非製造業	8.0	9.6(0.8)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

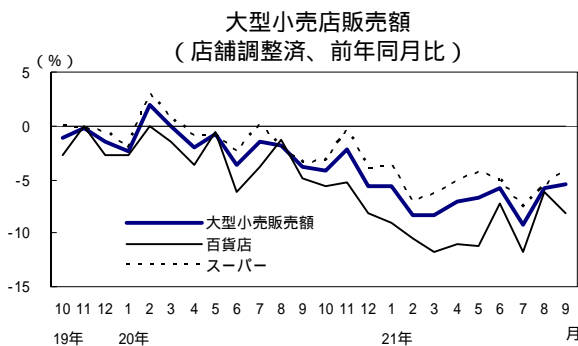
大型小売店販売額

百貨店は、7月は夏のクリアランスセール、中元の早期割引前倒しの反動や一部地域における豪雨被害で客数が減少し、紳士服、婦人・子供服、食料品が落ち込んだことから前年を下回った。8月は、夏物や秋物の衣料品が低調だったものの、ギフト解体セールや土産品が好調だったことから、前年比の減少幅が縮小した。9月は、一部店舗における改装や催事の効果がみられたものの、高額商品を中心に依然として売上は全体的に厳しく、前年を下回った。中国四国百貨店協会によると、10月の中国地区の売上高は、前年同月比で9.4%減となっている。

スーパーは、飲食料品は内食志向により微増だったものの、全般的に単価が下落するとともに、衣料品、身の回り品が低調だったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(9月)[家計動向関連(現状)]

「大型連休の時期に全館で割引を中心とした企画を実施し、その時だけ売上が好調だった。どうしても値下げ品に客のし好が流れて、定価品の販促企画に対しては反応が鈍い(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

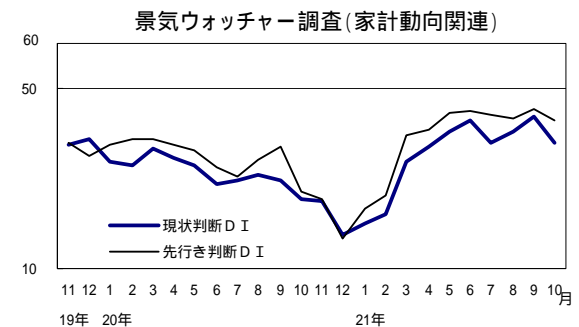
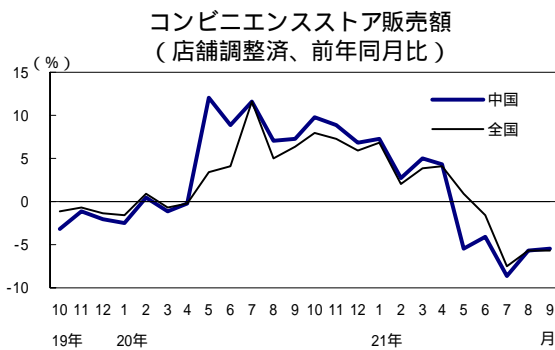


	(前年同月比、%)			
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	4.1	7.4	6.6	7.0
百貨店	6.5	10.4	9.9	9.1
スーパー	2.7	5.7	4.8	5.9
乗用車	11.9	20.2	13.0	4.0
景気ウォッチャー	22.7	25.3	40.2	40.7

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

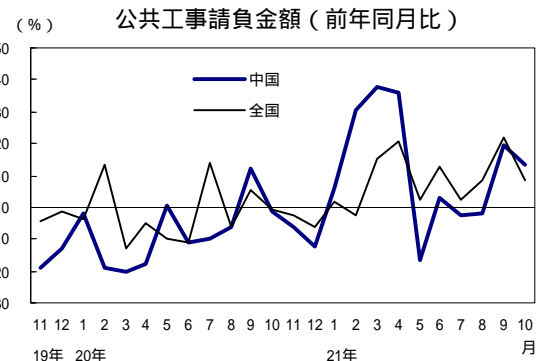
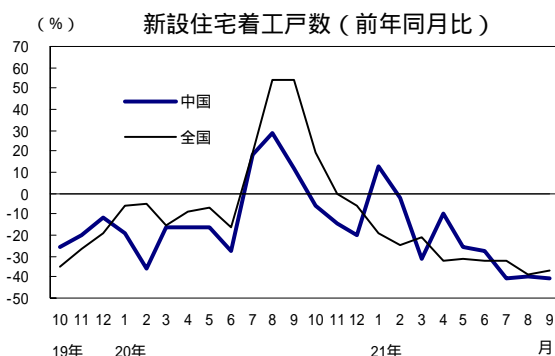
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回り、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

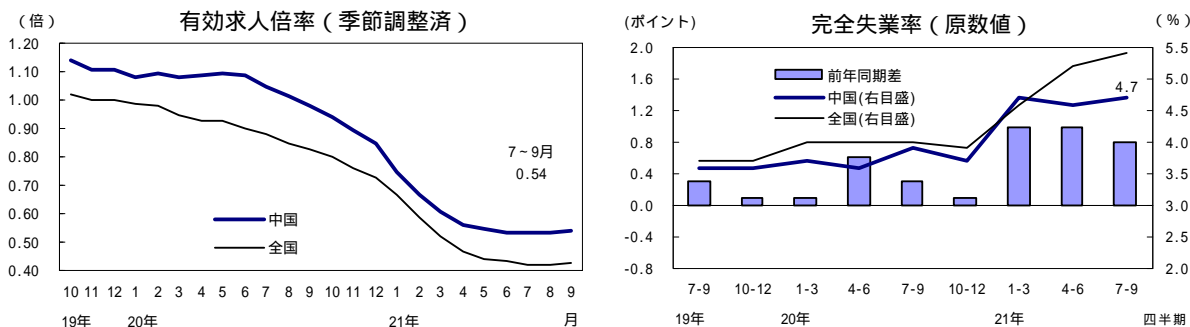


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

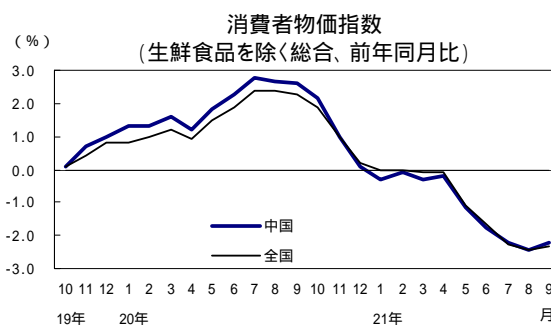
「補助金活用により雇用を死守しようとする企業の態度、会社都合による退職者、事業所閉鎖による転職拒否のための自己都合退職者の増加など、数か月前と状況は変わらない (民間職業紹介機関)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月	21年10月
倒産件数	199	178	147	156	57
(前年比)	27.6	10.6	26.1	17.5	3.4
負債総額	507	951	744	325	219
(前年比)	18.8	81.5	12.3	90.1	22.3



景気ウォッチャー調査 [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状> (10月)

・新型車の投入や、補助金と減税の影響が続いており、店頭は客でにぎわっている (乗用車販売店)

<先行き> (9月)

・10月、11月に3連休があり、人の動きが良くなる観光シーズンと重なるためかなりな数字が期待できる (その他飲食 [サービスエリア内レストラン])

